

第41回2022トリミング競技大会

全国のトリマー196名が挑んだ「第41回2022トリミング競技大会」がロイヤルカナン・カップ2022、JKCサクラ・アニュアル・ショー2022の会場にて、2日間にわたり開催されました。



理事長賞受賞者には、特別協賛：ロイヤルカナン ジャポン合同会社、協賛：株式会社アイレックス、株式会社 PLUSH PUPPY JAPAN GROOMING PRODUCTS、有限会社ファースト インターナショナル アソシエイト、日本ウォール株式会社、株式会社 アンドーより、副賞が贈られました。

「第41回2022トリミング競技大会」が4月1日(金)・2日(土)の2日間にわたって開催されました。

初日は全国のプロック予選を勝ち抜いてきた95名のトリマーによる「ブロックの部」、2日目は公認トリマー養成機関代表101名による「養成機関の部」の競技が行われました。

出場者には、自ら用意した2カ月以上カットをしていないモデル犬を2時間以内で仕上げ、高度な技術力が要求されます。コロナウイルス感染症予防の中、時間との戦いという緊迫感に包まれつつ、皆精一杯持てる力を発揮しました。

理事長賞

養成機関の部

ブロックの部



上田真歩 (ロイヤルグルーミング学院)

総評 | 審査員長：水越治子

全体の感想としては各養成機関は基本に忠実に指導されておられると実感しました。さらにスタイリングにおいては年々洗練度が上がり、スタイリッシュな仕上がりになっていると感じました。

各クラスの最優秀技術賞はそれぞれ個性が光り、甲乙付け難い気持でしたが、ブードルにおいて特に重要なポイントでもある頭部表現の正確さ、美しさ、セットアップのナチュラル感を評価しましてA組の方を理事長賞に決定致しました。

上田さんのコメント

2017年に、ブラックのミディアム・ブードルでC組の部で出場したことがあるので2回目です。

足止めや、足回りを特に綺麗にカットすること。ミニチュアサイズのブードルなのでロゼットやプレスが小さくなりすぎないことに気をつけました。学校の先生からは焦らずゆっくり自分のカットを心がけるよう、アドバイスを頂きました。

適度な緊張感でいつもよりセットアップに入る時間やかける時間が自分的にはうまくいったかと思えます。

まさか、理事長賞まで頂けるとは思っておらず、最高のスタートができました。次は「一般」に、将来的には「デザインカット」の大会に挑戦したいです。



大星友輝 (中国ブロック)

総評 | 審査員長：古川利恵

各組の最優秀技術賞に選ばれた方々なので、皆完成度が高く審査は難しかったのですが、理事長と相談の上、スィニング・ブラッキング犬種A組の方を選出致しました。

犬種をよく理解し、それを十分な技術力で表現され、最もビフォーアフターに優れていました。今後の活躍に期待致します。

最後になりましたが、数年にも及ぶコロナ禍の中この大会を開催して下さった全ての皆様に心より感謝致します。ありがとうございました。

大星さんのコメント

Aクラスになって3度目の出場です。

ミニチュア・シュナウザーのシャープさ、重心のバランスなど犬種の特徴を表現できるように気をつけました。先生からは作業は力まず自然体で行うこと、めぐってきたチャンスは絶対に手に入れる気持ちで大会にのぞむようにご指導いただきました。

手ごたえはとくにありませんが、ステー징ングをしてからローリングをしていくミニチュア・シュナウザーのトリミングの要になるコートワークに時間は多くとりました。表現しきれなかった部分があるので今後の課題です。

日本でもっとも伝統のあるトリミング競技大会の歴史に名前を残せることをとても光栄に思います。次は犬種を変えての出場も考えているので、そちらでも良い評価をいただけるように頑張ります。



優秀養成機関賞



静岡グルーミングスクール (左)

アートグルーミングスクール (右)



養成機関の部

A組



短評 | 審査員・水越治子

養成機関ではありますが、A組は各トリミング犬種にショークリップを要求されており、出場者の方々はドッグショーのリンクの中で自分のモデル犬をショーイングするイメージを念頭においてトリミングして頂きたいと思えます。
テーブル上のスタックとムーブメント両面においてスタイリングを維持できるかという点、また、トリミング中無駄のない的確な作業の

進め方をしているかどうかという点を注視させていただきました。最優秀技術賞の方は突出してシザーワークが早い訳ではありませんが、大変丁寧な仕事ぶりに好感が持てました。
スプレーセットはオーバースプレーになる事無くナチュラルでありながら美しく仕上がっていました。更に優雅な表現が加味されますと尚良くなるでしょう。

- 最優秀技術賞：上田真歩 (ロイヤルグルーミング学院)
優秀技術賞：澤邊亮太 (スカイ総合ペット専門学校)
森内ひなた (愛犬美容看護専門学校)
技術賞：喜多 茜 (九州サンシャインドッググルーミングスクール)
岡本双葉 (ロイヤルグルーミング学院)
若杉鞠亜 (SIDドッググルーミングスクール)
坂巻朱梨 (スカイ総合ペット専門学校)

B-1組



短評 | 審査員・島本彩恵

このクラスは18名全員プードルでの参加でした。全体としては各養成機関の代表の方達なので、作業もスピーディーに進んでいました。出場に際しては、プードルのラムクリップが殆どです。コンテンツの多いラムクリップ以外のクリップスタイルやほかのシザーリング犬種を使って、スキル&スタイリングが良いと高得点が望めるかと思えます。
そんな中、コンテンツの多いパジャマタッチで参加された118番の

方は、作業はゆっくりながら確実に各パーツを仕上げている、最優秀技術賞にさせて頂きました。
個人的な意見ですが、頭部表現はとても大切な得点の要素です。シザーリングの手順に決まりはありませんので、クリッピング終了後にクラウンを作っておくのも一考かと思えます。競技の最後に時間が無く焦ることも少なくなるのではないのでしょうか。

- 最優秀技術賞：和田真依 (九州サンシャインドッググルーミングスクール)
優秀技術賞：太田 豊 (ナンバペット美容学院)
灘井千香子 (東京愛犬専門学校)
技術賞：壬生 歩 (静岡グルーミングスクール)
北原綾乃 (大分ドッググルーミング専門学校)
岩澤愛美 (スカイ総合ペット専門学校)
田中奈緒 (ロイヤルグルーミング学院)
黒澤奈恵 (アートグルーミングスクール)

B-2組



短評 | 審査員・糸井欽司

出場者全員仕上がったスタイルやバランスはとても美しく良いのですが、その犬その形を覚えてトリミングをしている様に見えました。
出場者全員プードルでした。プードルらしさはどう表現すべきかを今後の課題にさせていただくとより一層良くなるでしょう。

技術面では面で作っていく方がほとんどで最優秀技術賞の方と優秀技術賞の方は線、ラインを確認しながらトリミングしていました。
立毛→カット→確認という正確さと切りカスを払うという面でもしっかりとコームを入れてほしいと思います。

- 最優秀技術賞：佐藤愛華 (静岡グルーミングスクール)
優秀技術賞：近藤花帆 (愛犬美容看護専門学校)
加川 円 (アートグルーミングスクール)
技術賞：佐藤友里 (SIDドッググルーミングスクール)
チャン クアン ティン ウェンティ (九州サンシャインドッググルーミングスクール)
黒沢拓未 (SIDドッググルーミングスクール)
田口幸来 (東京愛犬専門学校)
手島瑞穂 (アートグルーミングスクール)

C組



短評 | 審査員・西鉢恭子

上位3名の方は僅差でした。最優秀技術賞の方は少し胴が長いようにも思いますが、四肢の太さやクラウンから首・肩のラインをうまくまとめておられたと思えます。
優秀技術賞の方2名は尾の付根やタックアップの位置が少し気になる

りました。技術賞の方々はシルエットはバランス良く刈れていたと思いますが、コームやハサミの使い方に気になる部分があり、毛が揃ってなかったのが残念でした。

- 最優秀技術賞：井元涼葉 (ナンバペット美容学院)
優秀技術賞：中山愛菜 (アートグルーミングスクール)
鳴海 茜 (スカイ総合ペット専門学校)
技術賞：望月心夢 (静岡グルーミングスクール)
中村優太 (九州サンシャインドッググルーミングスクール)
横山芽以 (ナンバペット美容学院)
角皆亜美 (静岡グルーミングスクール)
渋川佳奈 (静岡グルーミングスクール)
山田杏樹里 (SIDドッググルーミングスクール)

E組



短評 | 審査員・福永久子

このクラスのエントリーは27名でした。全体的に作業前のモデル犬の状態も良好で良く管理されていたと思えます。
上位選出では接戦でしたが、最優秀技術賞に選ばれたトイ・プードルのラムクリップはバランスも良く、全体のラインの正確さ、どの

角度から見てもペットクリップの可愛らしさがとても良く表現されていたと思えます。全体の作業工程もスムーズでした。
又、エントリーされた皆さんにはさらなるスキルアップを目指し、初心を忘れる事なく頑張っていってもらえる事を期待します。

- 最優秀技術賞：川路梨緒 (宮崎ペットワールド専門学校)
優秀技術賞：寶藏志保 (宮崎ペットワールド専門学校)
長瀬琴乃 (つくば国際ペット専門学校)
技術賞：高呂さくら (広島アニマルケア専門学校)
田中麻尋 (河原アイペットワールド専門学校)
中島みゆ (専門学校ビジョナリアーツ)
後井彩花 (専門学校穴吹動物看護カレッジ)
沖本紗矢香 (専門学校穴吹動物看護カレッジ)
宮本芽衣 (アジア動物専門学校)
三船 碧 (日本ペット&アニマル専門学校)

ブロックの部 (A組～D組)

A組



最優秀技術賞：梅里祐葵子 (九州ブロック)
 優秀技術賞：伊牟田愛夢 (大阪ブロック)
 大崎恵美 (神奈川ブロック)
 技術賞：上田晶子 (四国ブロック)
 藤間里美 (神奈川ブロック)
 藤岡今日子 (中国ブロック)
 松本沙樹 (四国ブロック)
 今村京子 (四国ブロック)
 畠山桃子 (東京ブロック)

| 短評 | 審査員・古川利恵

最上位クラスなので基本技術はもちろん、全体バランスシンメトリーは当たり前とし、各パーツの完成度、頭部表現などを重視して審査致しました。
 上位の方々は接戦で、最後まで悩みましたが、作業工程が良く丁寧

な仕事で高い完成度とし、コンチネンタルクリップの魅力をしっかり表現された方を最優秀技術賞に選出致しました。
 出場された皆様の更なるスキルアップを期待致します。

B組



最優秀技術賞：高木麻衣 (中国ブロック)
 優秀技術賞：森 香 (北関東ブロック)
 上河志穂 (中国ブロック)
 技術賞：吉田朋世 (近畿ブロック)
 内田悠香 (千葉ブロック)
 笠原朝美 (埼玉ブロック)
 渡邊敏壮 (中部ブロック)
 萩原菜々 (大阪ブロック)

| 短評 | 審査員・田中美恵子

20名での競技となったブロックのB組は、最上級A級ライセンスの取得に繋がる関門となるクラスで、2時間のトリミングが終了した時点で、そのままショーリンクへ出陳できるスタイルに仕上がっている事を目標とする上級クラスです。

この度の競技大会までに至る長い時間を費やしてこられた方々ならではの、慣れ感のある途中作業が多く見られました。それぞれの個性が光る中、ご自分のモデル犬の長所を生かし、更に美しくバランス良く仕上げられていたの方々を入賞とさせて頂きました。

C組



最優秀技術賞：井出友美 (中部ブロック)
 優秀技術賞：中島亜里沙 (中部ブロック)
 尾津朝香 (中国ブロック)
 技術賞：橋本寧々 (北陸甲信越ブロック)
 山元真帆 (九州ブロック)
 平松鶴久実 (中国ブロック)
 山際佳子 (千葉ブロック)
 安楽拓也 (九州ブロック)
 上原知奈美 (東京ブロック)

| 短評 | 審査員・渡辺まゆみ

ブロックC組出場者22名の中から9名の入賞者を選出しました。
 入賞者の皆さんは、道具の扱い方がスピーディーかつ正確であり、シザリング作業の安定した進め方が、きめの細かい美しい仕上がりと繋がっていました。
 最優秀技術賞の方は、全体のバランスをよく観察しながら丁寧なシザリングが行われ、シンメトリーも確かに表現した中で、ラムクリッ

プのポイントやアクセント、可愛らしさの特徴が良く出ていたと思います。特に、後軀の角度を的確にとらえた品の良いスロープや、頭部からネック、ポディーへと繋がるトップラインが美しく描かれていたのが印象的でした。
 今後のご活躍が楽しみです。出場者皆さんにおかれましても今後更に技術力を磨き、飛躍されることを期待いたします。

D組



最優秀技術賞：中島由紀 (神奈川ブロック)
 優秀技術賞：石川由紀乃 (埼玉ブロック)
 中村健太 (東北ブロック)
 技術賞：坂井風香 (東北ブロック)
 佐野由佳 (中部ブロック)

| 短評 | 審査員・深町政彦

このクラスは全体的に犬の扱い方、道具の扱い方は良い人が多かったです。犬に負担のかからない基本的なグルーミング手法はほぼマスターされていると感じました。道具の扱い、手際共に優れた方が多かったですが、仕上がりが誇張しすぎている出場者の方もいました。
 Dクラスですので、今は土台作りの大切な時期です。基本に沿ったトリミング技術の手法を心掛け、今後もスキルを磨いてください。

今回の最優秀技術賞の方は犬種標準を十分に理解し、ビジョン・フリーゼの特徴を十分に発揮させたトリミングでありました。綿帽子をかぶったような頭部表現はとても愛らしく、長方形のポディーとのバランスも良かったです。
 今後も出場者全員、B級、A級ライセンスを目標として頑張っていたらと嬉しく思います。

ブロックの部 (スイニング・ブラッキング犬種A組～D組)

スイニング・
ブラッキング犬種
A組



最優秀技術賞：大星友輝 (中国ブロック)
優秀技術賞：神宮有里子 (北関東ブロック)
技術賞：森下智恵子 (東京ブロック)
村田浩樹 (大阪ブロック)

| 短評 | 審査員・飯田慎司

このクラスは競技者6名での参加となりました。最上級クラスだけあって、ハイレベルなグルーマー達とモデル犬達でした。
2ヶ月間コートに触っていないラフな状態からクリッパーワーク、

コートワークも手際よく仕上げ、特にナイフの使い方が非常に上手で、頭部表現はもとよりボディーのコートワークもうまく仕上げていました。

スイニング・
ブラッキング犬種
B組



最優秀技術賞：伊藤穂波 (東京ブロック)
優秀技術賞：一色真結 (中国ブロック)
田中美奈実 (大阪ブロック)
技術賞：村上祥子 (埼玉ブロック)
五十嵐麻耶 (東京ブロック)

| 短評 | 審査員・飯田慎司

このクラスは競技者8名での参加となりました。最優秀技術賞のアメリカン・コッカー・スパニエルはラフなコート状態からクリッパーワークスイニング技術は素晴らしく、ブレンディング部分においては

ナチュラルに表現されていました。
再考していただきたいのは、ブラッキング競技者においての左手の使い方の重要性をもう一度考えてほしいと思います。

スイニング・
ブラッキング犬種
C組



優秀技術賞：星 洋輔 (東京ブロック)

| 短評 | 審査員・飯田慎司

このクラスは競技者3名での参加となりました。
トップコートとアンダーコートを上手に処理し、四肢におけるシザーリングも上手で、頭部表現においてもうまく表現できていました。

スイニング・
ブラッキング犬種
D組



最優秀技術賞：有村 健 (東京ブロック)

| 短評 | 審査員・飯田慎司

このクラスは競技者3名での参加となりました。
作業前のコート状態はラフな状態でしたが、ナイフの使い方もうまく全体的にバランス良く仕上げていました。特に頭部表現も上手に作られていました。